

時ハ之ヲ徴収セストアリ又第五十三條ニハ裁判費用ノ宣告ヲ受テ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スルキハ其相續人ヨリ之ヲ徴収ストアリ右ハ何レモ裁判確定シタル後ニ犯人身死シタル時ノ謂ヒナルヤ如何 答裁判未確定前ニ犯人身死スル時ハ其刑ハ消滅スルヲ以テ其執行ヲナスヘキ理由ナシ因テ無論裁判確定後犯人身死シタルノ場合ヲ謂ヒタル者ト解釋スヘキナリ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

○問輕罪ノ刑ニ附加シテ監視ヲ言渡サレタル者其期限間公權ヲ行フヲ禁止セラレタルニ曾テ他人ニ貸附シタル金圓ノ返濟ヲ得ル爲メ自ラ之ヲ法術ニ出訴スル者アリ如是ハ犯則ノ限リニハ無之ヤ 答治産ヲ禁セラレサル以上ハ犯則ノ限リニ在ラサルナリ

第二十二條

明治十五年八月十二日第四十二號布告ヲ以テ改正

監視ニ付ス可キ者ハ豫シ

メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ最近ノ警察所ニ護送シ警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致シ監視ヲ執行セシム但シ主刑其ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ護送ス可シ

○問住所ヲ定メシメ云云トアルハ本籍寄留止宿何レニ限ラス本人ノ以後住所ト定ムル旨申立ル場所ヲ言フカ 答然ッ

○問本條及ヒ第四十二條ニ記載スル所ノ犯人ヲ護送スルニハ押丁等ヲ用ユルモ妨ケナキヤ又ハ押丁等ヲ用ユルヲ得サルヤ 答監視ニ付スヘキ者ヲ護送スルニハ必ラス押丁又ハ護送人ヲ用ユヘキ者ナリ

○問刑期滿限ノ者ヲ解放シタルキ又ハ既決囚ノ死亡シタル場合原裁

判所及ヒ檢察官ニ通報スルノ手續ハ行政ノ處分ニ屬スルヤ 然リ 答

第二十三條

犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算満期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

○問監視ノ起算満期ヲ記載シタル文書ハ典獄ニ於テ之ヲ製スヘキヤ 又ハ檢察官ニ於テ之ヲ製スベキヤ 答主刑ノ終リタル監視者ニ附スル分ハ典獄之ヲ調製スヘク止テ監視ニ付スル者ニ附スル分ハ 檢察官之ヲ製スヘキ者タリ

○問刑名宣告書ノ謄本ハ必ス其全文ヲ寫載スヘキカ又ハ便宜受刑者ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地及ヒ犯罪事件犯罪ノ地適用シタル法律規則言渡タル刑ヲ援書シテ交付スルモ苦シカラスヤ 便宜援書ニテ交付スルコトヲ得ヘキナリ 答

第二十四條

明治十五年八月十二日第四十二号布告ヲ以テ削除

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但シ途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ 犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

○明治十五年内務省乙第十九號達

警視廳 府縣 東京府ヲ除ク

刑法附則中監視票旅券共別紙書式之通相定候條各廳ニ於テ調製シ下付スヘシ此旨相達候事 但紙質堅緻ナルモノヲ用ユヘシ

別紙

原表寸方何レモ堅四寸五分横七寸一分五厘

面

五月											
六月											
七月											
八月											
九月											
十月											
十一月											
十二月											

旅券

刑名刑期

何府何區何町何番地住又ハ寄留何某
 何縣何郡何村何番地住子弟妻女同居
 何年何月何日宣告
 何年何月何日滿期 族籍

表

面

監 視 何年何月 何年何月何日起
 罪質犯數 何年何月何日滿

何 何年何月生 某
 明治何年何月 何年何ヶ月

一此者何府縣何區郡何町村何某方へ旅行スルコトヲ許可ス
 一何年何月何日日本地ヲ發途ス
 一先方ノ地 (モシ途中滞在スル) ニ滞在スル日數何日間トス
 一何年何月何日歸宅スルモノトス
 先方ノ地 (モシ途中滞在スル) ニ到レハ此券ヲ直ニ其地ノ警察署ニ出シテ
 官吏ノ認印ヲ受クヘキ事
 旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ己ムコトヲ得ヌシテ淹滞シタルモ其事由テ
 其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ請ヒ歸着シタルモモシクハ先方ノ地
 ニ至レハ此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ警察署ニ示スヘキ事
 歸着シタルモ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事
 右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ 何警察署
 警察使 何 某 印
 府縣ニテハ 何府縣何警察署
 警部 何 某 印
 明治何年何月何日

裏 面

認 印 表			
某 警 察 署			
何年何月何日ヨリ何 年何月何日迄向府縣 何(區郡)何(町村)何番 地何某ニ滞在ス	、、、、 、、、、 、、、、 印	、、、、 、、、、 、、、、 印	、、、、 、、、、 、、、、

(被監視人姓名ノ上)ノ内ノ文字ハ十六年
四月内務省乙第十四號達ヲ以テ追加)

表 面

旅 券

<p>一 此者監視 假出獄ヲ許サニ付セラレ何地ニ於テ之ヲ執行スヘキニ付該地 へ到ル者也</p>	<p>一 何年何月何日本地ヲ發途ス</p> <p>一 何年何月何日先方ノ地ニ到ルモノトス</p>	<p>先方ノ地ニ到レハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ差出スヘキ事</p>	<p>但本文旅券ニ假出獄證票ヲ添ヘ官吏ノ監査ヲ受クヘシ</p> <p>旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察署 ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ到着ノ日此旅券ニ添ヘ警察署ニ差出スヘキ事</p>	<p>右刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル者也</p> <p>東京ニテハ 何警察署</p>	<p>何府區町何番地住又ハ寄留何某 何縣何郡何村子弟妻子同居</p>	<p>刑名刑罰) 何年何月何日宣告</p> <p>監 視) 何年何月何日滿期)</p> <p>何年何月) 何年何月何日滿)</p> <p>罪質犯數) 何年何月何日滿)</p> <p>族 籍) 何</p> <p>何年何月生) 某</p> <p>明治何年何月</p> <p>何年何ヶ月</p>
---	--	------------------------------------	--	--	--	--

○附錄

明治何年何月何日

警察使 何 某 印
府縣ニテハ 何 某 印
警部 何 某 印

萌黄色花形

特別監視票

刑名 刑 期 何年何月何日 何府何區何町何番地 又ハ寄留何某
 何年何月何日 何縣何郡何村何番地 子弟妻子同居
 附加監視何年何月 何年何月何日 滿期 屬籍 何 某
 何年何月何日 滿 何年何月生
 假出獄何年何月何日 許可 明治何年何月
 何年何月何日 滿 何年何月何日 滿 何年何月何日 滿
 特別監視何年何月 何年何月何日 起
 何年何月何日 滿
 特別監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ
 一 毎週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ
 認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコ
 能ハサルキハ其事由ヲ届出ツヘシ

表

面

一 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
 二 事故アリテ住居ヲ轉移セントスルキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ
 但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス
 四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス
 (重罪ノ刑ニ處セラレタル者アルキハ左ノ一項ヲ附加ス)
 自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスルキハ刑法附則第四十一條
 ニ從ヒ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ
 右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者也

明治何年何月何日

東京ニテハ 何警察署 何 某 印
警察使 何 某 印
府縣ニテハ 何府縣何警察署 何 某 印
警部 何 某 印

(明治十六年三月内務省
乙第十号達ヲ以テ改正)

認印表

初 年 二 年 三 年 四 年

		裏											
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
	度一												
	度二												
	度三												
	度四												
	度五												
	度一												
	度二												
	度三												
	度四												
	度五												
	度一												
	度二												
	度三												
	度四												
	度五												
	度一												
	度二												
	度三												
	度四												
	度五												

面

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月

○明治十五年內務省乙第三十一號達

本年當省乙第十九号達刑法附則第二十五條ニ依リ附與スル旅券第四項ノ但書ハ特別監視ニ附セラレタル者ニ限リ挿入シ尋常監視ニ附セラレタル者ニ挿入セス及ヒ監視表并ニ旅券ニ警察署トアルハ警察分署ヲモ包含セル儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○明治十六年内務省乙第十四号達

客年三月當省乙第十九号達監視票旅券書式中刑法附則第二十五條ニ依リ下付スヘキ旅券被監視人姓名ノ上ヘ左ノ通追加候條此旨相達候事

追加文ハ十五年乙第十九号達旅券書式ニ就テ掲載ス故ニ略ス
 ○間里程ヲ計リ日數ヲ限定スルニハ通常片道八里ヲ以テ一日程トナスヘキ又ハ其犯人ノ體格強弱如何ニ因テ之ヲ限定スヘキヤ
 答一日程ハ片道八里ノ割ヲ以テ限定スヘキ者タリ

○附錄

○問監視ニ付セラレタル者ヲ警察傳遞ヲ以テ護送スルモ苦シカラス
ヤ 答必ス本條ニ從ヒ旅券ヲ付シテ發遣スヘシ警察傳遞ヲ爲ス
トヲ得サルナリ

○問監視ニ付スヘキ者ニ旅券ヲ付與シテ發見シタル途中逃亡シタル
ト逮捕スルノ手續ハ何レノ官署ニ於テ之ヲ爲スヘキヤ 答監視
ヲ執行スヘキ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ヲ爲スヘク若シ被告人其
申立タル地ニ住居ナキトハ送致ヲ爲シタル地ノ官署ニ於テ右處分
ヲ爲スヘキ者ナリ

○問監視ニ付セラレタル者ヲ警察傳遞ヲ以テ護送スルモ苦シカラス
ヤ 答必ス本條ニ從ヒ旅券ヲ付シテ發遣スヘシ警察傳遞ヲ爲ス
トヲ得サルナリ

○問監視ニ付スヘキ者ニ旅券ヲ付與シテ發遣シタル途中逃亡シタル
ト逮捕スルノ手續ハ何レノ官署ニ於テ之ヲ爲スヘキヤ 答監視

ヲ執行スヘキ地ノ官署ニ於テ逮捕ノ處分ヲ爲スヘク若シ被告人其
申立タル地ニ住居ナキトハ送致ヲ爲シタル地ノ官署ニ於テ右處分
ヲ爲スヘキ者ナリ

○問刑法中監視ノ長期ハ五ヶ年ナル内務省ヨリ達セラレタル監視票
ノ裏面認印表ハ五年ニ限レリ例ヘハ初年ノ三四月若シハ八九月監
視ニ付セラレタル者六年目ノ二三月若シハ七八月マテノ認印ハ何
レノ欄押捺スヘキヤ 答檢印スヘキ畫欄盡タルトハ其理由ヲ記
シ更ニ票ヲ引換ヘキナリ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間
遵守ス可キ條件ヲ讀聞セ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ
遵守ス可シ

○問本條第四項ニ他ノ地方ニ旅行スルトナ許サストアル他ノ地方ト

ハ其警察署管轄外ヲ指スカ又ハ其府縣管轄外ヲ指スカ 答其府縣管轄外ヲ指スナリ 曰ク然ラハ則チ人力車夫又ハ行商ヲ業トスル者其住所ニ接近スル他ノ地方ニ出入スルニ非サレハ生活シカタクキ者ノ如キハ如何スヘキヤ 答他ノ地方ニ旅行トハ眞ノ旅行ヲ謂フ者コシテ行商人力車夫等ノ營業ノ爲メ自己住所ニ接近シタル他ノ地方ニ出入スル如キハ此限ニ在ラス然レハ一泊以上ニ至ル者ニハ規則ニ從ヒ旅券ヲ給スヘキ者ナラン

○問被監視者船乘飛脚行商ノ如キ旅行ヲ常トスル者ハ何レモ止ムヲ獲サル者タルヲ以テ其旅行ヲ許可シ可然ナレハ其航海中寄港又ハ陸地滞在等ノ都合有之往復日數並滯留日數限定シカタクキ場合ハ如何スヘキヤ 答仍ホ其旅行日數ヲ限定シテ申出サセ旅券ヲ給スヘク若シ限定外不得止事故ノ爲メニ途中ニ淹滞シタルキハ其事由ヲ警察署ニ具申セシムヘキ者ナリ

○問力役等ヲ以テ糊口ヲ爲ス者ノ如キハ其業體ニヨリ住居地町村最寄ニテ其職業ニ従事スルヲ得ス數里外ナル他ノ警察署管下ヘ數十日出稼ヲナス者アリ是等ノ者ヨリ毎月兩度居住地ノ所轄警察署ヘ謹慎ヲ表スル爲メ出頭スル時日ヲ費シ糊口上ニ困難スルヲ以テ出稼地ノ所轄警察署又ハ分署ヘ出頭謹慎ヲ表セシムヲ願ヒ出ルルハ聽届ケ苦シカラスヤ 答事情止ムヲ獲サル者ハ之ヲ聽許スヘキ者ナリ

○問警察署ヘ往復一泊以上ヲ要スル地ニ在ル場合ニ於テハ郡役所又ハ戸長役場ニ又ハ巡查交番所ニ出頭シ監視表ニ檢印ヲ受ルモ苦シカラスヤ 答郡役所又ハ戸長役場ニ於テ檢印ヲ受ルヲハ苦シカラスト雖モ巡查交番所ニ於テハ監視ノ事務ヲ取扱フヲ得サルナリ 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但シ疾病又ハ已ム

ヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事
由ヲ届出ツ可シ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許
サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請
シ許可ヲ受ク可シ

四禮ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ己ムヲ得サ
ル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可
シ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ
臨檢スルヲアル可シ

○問本條ノ家宅臨檢ハ夜間ト雖モ之ヲ爲スヲ得ヘキヤ 答然リ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時

ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載
シタル書類ヲ遞送ス可シ

○問監視ニ付セラレタル者其期限中甲警察署ヨリ乙警察署又ハ甲府
縣ヨリ乙府縣へ住居ヲ轉スルキハ本條ニ依リ其事由ヲ轉住ノ地ノ
警察署ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送スルニ止リテ
旅券ヲ下付スルニ及ハサルヤ如何 答旅中ノ取締ニ關係スヘキ
ヲ以テ第二十五條ヲ通用シ旅券ヲ下付スヘキ者ナリ

○問内務省ヨリ達セラレタル旅券離形ニハ本條住所ヲ轉スルキノ書
式ヲ載セラレス個ハ第二十五條ニ依リ下付スル書式ニ準擬スヘキ
ヤ如何 答然リ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ其里程
ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス
可シ

○問旅行先キ滯留日數月餘ニ涉ルキハ其滯留地所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ヲ表スヘキ者ナルヤ 答然リ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸リ來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ

○問若シ淹滞シタル地ニ警察署又ハ分署無之時ハ遠隔地ノ警察署ニ至リ其證書ヲ受ケサルヘカラサルヤ又ハ如是場合ニ於テハ其地戶長ノ證書ヲ受ルモ苦シカラサルヤ 答事實止ムヲ獲サル場合ニ於テハ其地戶長ノ證書ヲ受ルモ苦シカラサルナリ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ

其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

○問被監視人旅行中災難ニ罹リ旅費ヲ失却シ自ラ進退スル能ハサルキハ本條ニ照準シ其地監獄署又ハ被監視人發着ノ地孰レカ接近ナル場合ニ於テハ其接近ノ警察署ヘ護送スルモ差支ナキヤ 答然リ

○問被監視人ヲ在籍地ニ送致シタルニ其住居スヘキ家屋又ハ引取人モ之ナク勿論赤貧ニシテ別ニ住居ヲ定ムルヲ能ハサル場合ニ於テハ如何スヘキヤ 答本籍地ノ監獄署ヘ引渡同署ニ於テ本條ニ依リ處置スヘキ者ナリ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付
ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス
可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ
執行ス可シ

○問 監視期限内中其規則ニ違犯シ又ハ監視ノ附加刑ナキ罪ヲ犯シ若干
月ノ禁錮ニ處セラレ、者アルキハ其主刑滿限ノ後ハ殘餘ノ監視ヲ
執行セサルヘカラスシテ主刑ノ期限ハ監視期限ニ算入スヘカラサ
ルヲ得サルハ勿論ナルヘシト雖モ其犯罪審問ノ日數ハ責付保釋ト
勾留トヲ問ハス監視期限ニ算入スルヲ得ヘキカ如何 答 勾留中
ノ日數ハ期限ニ算入スルコトヲ得ス責付保釋ニ係ル者ハ實際監視ヲ
執行シタルキハ期限ニ算入シ之ヲ執行セサル者ハ算入スルコトヲ得
サルナリ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ

其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

○問 本條ハ禁錮罰金ヲ併科セラレ又ハ禁錮ニ處セラレタル者刑期中
更ニ罰金ヲ科セラレ限内納完スル能ハサル場合ニ適用スヘキ者ニ
シテ單ニ罰金ノミ科セラレタル者ニ適用スヘキ者ニ非サルヤ
答 然リ曰ク然ラハ則チ禁錮ニ處シ及ヒ監視ニ付セラレタル者はヨ
リ先キ罰金ノ刑ニ處セラレ限内納完スル能ハスシテ之ヲ禁錮ニ換
タルキモ亦其禁錮ノ日數ハ監視ノ期限内ニ算入スヘキヤ 答 然
リ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ俊改ノ
狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命
ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

○問 其事實ヲ内務司法兩卿ヘ具申スルノ手續ハ所管警察署警部ヨリ
府縣長官ヲ經由スヘキヤ又ハ警部ヨリ直チニ具申スルコトヲ得ヘキ

ヤ 答所管警察署警部ヨリ直チニ具申スルヲ得ヘキ者タリ

○問假リニ監視ヲ免シタル者若シ其行狀不都合ナリト認メタルハ
警察官ニ於テ再ヒ監視ニ付スルヲ得ヘキヤ又ハ一旦之ヲ免シタ
ル後ハ之ヲ再ヒスルヲ得サルヤ 答再ヒ監視ニ付スルヲ得
メン但其旨ヲ内務司法兩卿ニ届出置ヘキナリ

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時
ハ第二十七條第三及第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人
ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレン
トテ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

○問本條典獄ヨリ内務司法兩卿ニ具申スルモ亦第三十六條警察官ヨ
リ具申スルノ手續ト一般府縣長官ヲ經由セス直チニ典獄ヨリ之ヲ

爲スヘキヤ 答リ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人
ニ下付ス可シ

○問假出獄ノ證票ハ典獄ノ名ヲ用ユヘキカ 答然リ
但監獄則ニ屬セル證票ノ記式ニ從ヒ詳密記載スルヲ要ス

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止
シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產
ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許

可ヲ受ク可シ

○問監獄則第二十八條ニ假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其刑
期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ云云トアリ之ヲ本條ニ參照
スレハ典獄ノ指示シタル營業ノ方法トイヘモ更ニ警察署ニ申請シ
許可ヲ受クヘキ者タルカ如何 答警察署ニ於テ營業ノ許可
ヲ受タル上ハ典獄ヨリ之ヲ指示スルコアルモ更ニ警察署ヘ申請ス
ルニ及ハサル者タリ

第四十二條

明治十五年八月十二日第
四十二号布告ヲ以テ改正

假出獄ヲ許スヘキ者ハ豫
メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ添
ヘ第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セ
シム可シ

第四十三條

特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條
第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用

ス

○問第二十四條第二十五條三十一條及ヒ本條ニ據レハ監視ニ付セラレ
タル者ハ勿論特別監視ニ付セラレタル者ト雖モ其住居遠地ニ在テ
一日程ヲ過ル者ハ監獄署ヨリ最近ノ警察署ニ護送シ其警察署ニ於
テハ之ニ旅券ヲ付與シテ發程セシメ別ニ護送ヲナサル旨趣タル
コトハ明確ナルニ監獄則第二十七條ニハ假出獄ヲ許サレタル者ニハ
其証票ヲ與ヘ警察傳遞ヲ以テ其居住セシトスル地ニ押送スヘシト
アリ彼此相抵觸スルニ似タリ如何 答明治十五年五月廿二日內
務省ヨリ静岡縣ヘノ指令ニ刑法附則第四十三條ニ依リ取扱フヘシ
刑法附則ト監獄則ト抵觸ノ廉ハ追テ何分ノ達可有之トアリ

第四十四條

特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條
件ヲ遵守ス可シ
一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルコトヲ表シ監

視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムト
ヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルト能ハサル時ハ其事
由ヲ届出ツ可シ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルト許
サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ
許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルト許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルト許サス

第四十五條 特別監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家
宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ
假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル
典獄ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ヌ可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ

第二章ノ例ニ從テ處分ヌ可シ

○問監獄則假出獄ノ證票ニ此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日
出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住ス可キ何地ヘ約ネ何日迄ニ到着シテ
即時其地ノ警察官ニ届出テ此書面ヲ納メタル上云トアリ由是觀
之曩ニ獄司ヨリ下付セラレタル證票ハ己ニ警察署ヘ返納シタル者
ニシテ犯人ノ手ニ存スヘキ謂レナシ然ルニ本條ニハ刑期滿限ノ日
ニ至リ更ニ其證票ヲ警察署ヘ還納スルノ手續ハ前後相抵觸シタル
ニハ非サルヤ 答監獄則假出獄證票離形中ニ此證書ヲ納メタル
云云トアルハ唯之ヲ警察官ニ差出シ一時其閱覽ニ供スルニ止リ之
ヲ還納スルノ意味ニハ非サルナリ

第四十七條 假出獄ヲ許ヌ可キ者住所ナク及引取人ナキ時

ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ヌ可シ

○問警察署ニ遠キ僻地ニ至リテハ交番所ニ於テ監視ノ事務ヲ取扱フ
ヲ得ルヤ 答不可ナリ但警察署ニ遠クシテ往復一泊以上ヲ要
スル地ニ至リテハ一月兩度監視票ノ檢印ヲ與フルノミハ最寄郡役
所戸長役場ニ於テ之ヲ爲スモ妨ナシトス

第四章 刑事裁判費用

第四十八條

豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通
辯人翻譯人ニ給與スヘキ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條
第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

○問事實參考ノ爲メ呼出シタル證人トイヘモ通常證人ト同シク旅費
日當ヲ支給スヘキ者ナルヤ 答然リ

○問明治九年第六十三號布告証人並無罪解放人旅費支給方規則ハ刑
法附則頒布以後ハ廢棄ニ屬スル者ナルヤ 答明治九年第六十三
号布告ハ刑法附則ト兩立並行シテ廢棄ニ屬セス

○問召喚狀送ノ賃達錢ハ其性質裁判費用ニ屬スヘキ者ナルニ刑法附
則ニ之ヲ掲記セサルヲ以テ觀レハ裁判官檢察官ノ求メニ因テ發シ
タル召喚狀送達ノ賃錢ハ官費ニ屬スヘキ法意ナルヤ 答召喚狀
ノ送達賃錢ハ結局敗訴者ヨリ償却セシムヘキ者タリ

○問司法警察官治罪法第二百八十五條ノ場合證人トシテ呼出サレタ
ルル又ハ巡查其他ノ官吏戸長ノ如キモ犯罪ヲ告發シタルカ爲メ證
人トシテ呼出サレタルル其旅費日當ハ官吏旅費定規ニ從フテ支辨
シ刑法附則第四章裁判費用ニハ關セサルヤ 答然リ

○問本條ニ刑事裁判費用トアリテ公訴私訴ヲ區別セサルヲ以テ觀レ
ハ私訴裁判ノ費用モ亦本條ニ依ルベキヤ 答本條ハ公訴裁判費
用ノミノ法律タリ

第四十九條 明治十六年十一月十二日第
三十九號布告ヲ以テ改正 日當旅費及ヒ止宿料ハ
左ノ制限ニ據リ各地方適宜ニ其額ヲ定ム可シ

日當 五十錢以下

旅費 一里十錢以下

止宿料 一宿二十五錢以下

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

○問住居三里未滿ニシテ滯在セサル者ハ止テ日當ノミヲ給シ三里以外ニシテ滯在セス到着ノ日訊問等ヲ了シ即日退歸セシムル者ハ止テ往復旅費ノミヲ給スヘキ者ナルヤ 答然リ

○内務省ヨリ太政官ヘ伺十五年四月廿八日伺
十五年七月四日指令

一 裁判官又ハ警察官吏ニ於テ喚出ス罪囚證人其他喚出ヲ受ケ無罪ニ販スルモノ及人違又ハ官吏ノ人名ヲ誤寫スル等ニテ喚出サレタル者等ヘ支給スル旅費日當ハ明治九年第

六十三号布告ノ定規有之候處右喚出人ノ内豫審公判ニ属スヘキ者ハ刑法附則第四章ニ依リ支給スルハ無論ナリト雖モ其額被是同シカラス均シク官廳ノ喚出ヲ受ル者ニシテ給與ニ厚薄アルハ實際不都合ヲ免カレス然モ其豫審公判ニ属セサル者ハ尙ホ該六十三号布告ノ定規ニ從フ可キ哉

一 豫審公判ニ属セサル檢視處分ニ付警察官吏ニテ喚出スモノ、内醫師其他技術人等ノ給料ハ明治九年第六十三号布告中ニ掲載無之且ツ此等ノ者ハ多クハ業務繁忙ヲ口實トシ出場モ厭フノ情態アリ實際差支アルヲ以テ各地方適宜相當ノ雇料ヲ給シ來リ候右ハ將來刑法附則第四章ノ金額ニ超過スルモノアルモ仍ホ適宜支給セシメ可ナラン乎

一 豫審公判ニ属スル檢視處分(司法警察官タル者豫審判
事ノ嘱托ヲ受ケタル場合)ニ付喚出ス醫師其他ノ技術人ト雖モ實際差支アル地方ニ於テハ

前條ノ通適宜ノ雇料ヲ給シ而シテ其内ヨリ裁判費用トナ
ル可キ金額ハ追テ豫審判事ノ償還ヲ要シ其餘額ハ警察費
ヨリ辨償シ可然哉

右ハ目下差掛リ候事有之及稟申候條何分ノ御指令ヲ仰
キ候也

(指令) 伺ノ通

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ
非サレハ之ヲ給セス

○問本條ノ旅費日當等ハ豫審ニ係ル分ト雖モ被告人ニ對シ裁判費用
ノ言渡アルマテハ何時コテモ之ヲ請求スルヲ得ヘキヤ 答然

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十
條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ

給スルヲアル可シ

第五十二條 解剖舎密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻
譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ
於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直ニニ被害者ニ還付
スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求
ニ因リ還給セシムル者トス

○問贓物アル共犯人ヲ取押ヘタル地ヨリ遠隔地ノ檢事ニ送付スルカ
又ハ被害者貧困難澁ノ場合或ハ物件重量ナル時ハ司法警察官ニ於
テ假ニ還付又ハ保管シ置其受取書ヲ犯人ト共ニ檢事ニ送付スヘキ
ヤ而シ共運搬料保安料等ハ何レヨリ之ヲ支辨スヘキヤ 答然リ

而ノ此費用ハ官廳ヨリ支辨スヘキ者タリ

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若シクハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス
若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

○問記名公債證書ヲ賣買讓與スルニ證書面ノ記名者ヨリ賣買讓與ノ委任狀ニ委任者ノ氏名ノミヲ記シテ其權限ヲ記セス白紙ニ捺印シタル者ヲ添付シテ轉帳スルノ習慣アリ右ハ株式取引所又ハ諸公債證書賣買ヲ業務トスル國立又ハ私立銀行等ノ手ヲ經タル者ハ即チ公商公買ニ由リタル者トナスヘキヤ 答然リ

○問犯人ヲ捕拿シタル時其現ニ携フル所ノ贓物被害者明瞭ナル時ハ犯人ノ承諾ヲ得レハ直チニ之ヲ被害者ニ還付シ受領證書ヲ徴シテ

以テ其所轄裁判所ニ引繼モ若シカラズヤ 答犯人ノ承諾アラサルモ假リニ被害者ニ下渡シ置グヲ得ヘキ者タリ

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トナ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

而シ此費用ハ官廳ヨリ支辨スヘキ者タリ

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若シクハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス
若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

○問記名公債證書ヲ賣買讓與スルニ証書面ノ記名者ヨリ賣買讓與ノ委任狀ニ委任者ノ氏名ノミヲ記シテ其權限ヲ記セス白紙ニ捺印シタル者ヲ添付シテ轉輾スルノ習慣アリ右ハ株式取引所又ハ諸公債證書賣買ヲ業務トスル國立又ハ私立銀行等ノ手ヲ經タル者ハ即チ公商公買ニ由リタル者トナスヘキヤ

答然リ
○問犯人ヲ捕拿シタルキ其現ニ携フル所ノ贓物被害者明瞭ナルキハ犯人ノ承諾ヲ得レハ直チニ之ヲ被害者ニ還付シ受領證書ヲ徴シテ

以テ其所轄裁判所ニ引繼モ苦シカラスヤ 答犯人ノ承諾アラサルモ假リニ被害者ニ下渡シ置クヲ得ヘキ者タリ

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トナ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

○明治十四年第六十二号布告

明治十年一月第十三號布告府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分

規則ノ儀ハ明治十五年一月一日ヨリ廢止ス

○明治十四年司法省丁第二十八號達

大審院 裁判所

治罪法中ニ揚ケタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀及ヒ宣誓書式別紙ノ通相定ノ候條右ニ照準スヘシ此旨相達候事

○明治十四年第六十五号布告

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

別紙

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スヲ得

第二條 船長告訴發テ受タル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢証ノ處分ヲ爲シ且証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ル可シ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡ス可シ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡ス可シ

○明治十四年司法省丁第三十一号達

裁判所

本年(本月)甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル代

價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト可心得此旨相達候事

○明治十四年司法省丙第十七號達

警視廳 府縣 東京府ヲ除ク

治罪法令狀様式別紙丁第二十八號ノ通大審院裁判所へ相達候條其旨可相心得且司法警察官ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ右ニ照準シテ取計フ可シ此旨相達候事

丁第二十八號達ハ前ニ掲ケタリ

○明治十四年司法省丙第十八號達

府 縣

刑事裁判ノ宣告犯人本貫へ通知ノ儀裁判所へ別紙丁第三十三號ノ通り相達候條此旨爲心得相達候事

○明治十四年司法省丙第二十號達

大審院 裁判所

警視廳 府縣 東京府
ヲ除ク

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可相心得此旨相達候事

○明治十四年司法省丁第三十三号達

裁判所

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀此迄區々相成居候處來ル明治十五年一月ヨリ左之通可心得此旨相達候事

刑事裁判言渡アリタル時ハ治罪法第四百六十四條ニ掲ケル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致スヘシ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戸長ニ通知

シ該表ハ(イロハ)標號ニ從ヒ區別編纂致シ置ク可シ
犯罪人ノ前科取調ヲ要スル時ハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致シ置タル既決犯罪表寫ヲ送致ス可シ

○明治十四年第七十三號布告

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通

無能力者

一 未丁年者

二 妻タル者

三 白痴瘋癲人

四 治産ノ禁ヲ受タル者

法律ニ定メタル代人

- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
 - 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 治産ノ禁ヲ受タル者ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
 - 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

○明治十四年第七十四號布告

治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セス

○明治十四年第七十七號布告

本年十月第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得可シ

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續ハ本年第五十四號布告但書ノ通タル可シ

○明治十四年第八十號布告

本年九月第四十八號布告左之通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシム可シ

- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
 - 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 治産ノ禁ヲ受タル者ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
 - 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

○明治十四年第七十四號布告

治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セス

○明治十四年第七十七號布告

本年十月第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得可シ

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續ハ本年第五十四號布告但書ノ通タル可シ

○明治十四年第八十號布告

本年九月第四十八號布告左之通改正ス
違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシム可シ

○明治十四年第八十二号布告

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラス仍ホ従前ノ規則ニ從ヒ處分ス可シ

○明治十四年司法省丙第二十号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣 東京府ヲ除ク

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第三号達

裁判所 警視廳

府 縣 東京府ヲ除ク

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年(五月)當省第九号ヲ以テ相達置候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治十四年十二月第六十七号公布刑法附則第八條ニ據リ自今左ノ通改正候條此旨相達候事

一 死刑ノ執行アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左ノ雛形ニ據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ且別ニ宣告書ノ謄本ヲ製シ犯罪ノ地並犯人住居ノ地方 東京ハ府縣警視廳 へ速ニ送達ス可シ

一 警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書ノ謄本送達アレハ左ノ雛形ニ據リ犯罪地並犯人住居ノ地何レモ三日間通衢ニ揭示公告ス可シ

死刑宣告榜示公告雛形

犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示

、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

宣告書全文ヲ掲ク可シ
 右之通宣告相成候ニ付公布スルモ
 也
 警視總官名
 又 府縣長官名

重罪裁判所前榜示

用紙堅實ノ品ヲ選ス

、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

宣告書全文ヲ掲ク可シ

○明治十五年第七號布告

○明治十五年司法省丙第四號達

○明治十五年司法省丙第五號達

○附錄

爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシト有之候得共其裁判所々屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ中辨護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラヌ

○明治十五年第七號布告

治罪法第十九條第二項海上里程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノトス

○明治十五年司法省丙第四號達

裁判所 警視廳 東京府沖繩縣ヲ除ク

治罪法ニ定メタル勾引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラヌ

但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用ヒサル儀ト可心得此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第五號達

大審院 裁判所
警視廳 府縣 東京府
ヲ除ク

警察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當
リ其命令書若クハ言渡書ノ謄本ヲ要スル時ハ該書記局ニ於
テ速ニ其謄本又ハ拔書ヲ作り交付スヘキ儀ト心得ヘシ此旨
相達候事

○明治十五年司法省丙第六号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣 東京府
ヲ除ク

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ
發スル手續ハ左ノ通心得ヘシ此旨相達候事

第一條 逮捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二号書式ニ準シ
逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記ス可シ

但管轄地ノ内外ニ拘ハラヌ急遽ノ際巡查ヲシテ令狀ヲ
帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

第二條 管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ
逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條 管轄地外ハ第一号書式ニ準シ人相書ヲ作り之ヲ始
審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルヲ得
囑託ヲ受タル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更
ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄地内ノ警察署又ハ警察分署ニ配
付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四條 司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ
之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事
ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ
執行ヲ爲ス可シ

○明治十五年司法省丙第七號達

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府ヲ除ク

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中勾留ノ儀ニ付東京輕罪裁判所檢事犬塚盛魏ヨリ別紙甲號ノ通伺出候ニ付乙號ノ通内訓ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事
甲 號

明治十四年太政官第四十六號ヲ以テ前略犯罪ノ地ノ分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄ス可キ旨御布告相成候處右實際取扱方ノ儀ハ被告人逮捕ノ地ノ檢察官ニ於テ事件ノ模様ヲ審按シ其被告人ヲ管轄裁判所ニ送致スルヲ要セスト思料シタル時ハ事案ノ顛末ヲ犯罪地ノ檢事ニ通知シ併セテ其囑託

アル可哉否ヲ照會シ其囑託ヲ待テ起訴可及手續ニ可有之果
ノ然ラハ被告人所在地ノ司法警察官ニ於テ其舉動犯人ト思料スヘキモノアル等現行犯ニ準シ處分シ得ヘキ被告人ヲ逮捕シ拘留狀ヲ發シ一應ノ搜查ヲ爲シタル後檢事ニ送致シタル時ノ如キ其拘留狀執行ヨリ概テ已ニ六七日ヲ經過スルヲ以テ囑託ノ義ニ關シ檢事ヨリ前記ノ照會中拘留狀十日ノ期限ヲ過クル者往々有之然ルニ檢事ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若クハ被告人ヲ責付スルノ職權ナキニ因リ重罪犯又ハ逃走等ノ恐アリテ解放シ得ヘカラサル者ニ付テハ如何トモ處分ノ施シ様モ無之去リ迪拘留日數經過ノ一點ニ拘束セラレ前書ノ照會ヲモ用ヒスシテ直ニ其被告人ヲ犯罪地ノ檢察官ニ送致スルカ如キハ囑託法ヲ設ケラレタル御旨趣ニ相戾リ可申又
夕前書ノ照會一々電報ヲ借ルニ至テハ其事案ノ顛末ヲ盡ス

能ハサル而已ナラス此等ノ事件ハ實際頻々遭遇スル所ニシテ其經費モ亦小額ナラサル儀ト存候就テハ右等ノ場合ニ於テハ如何處分致可然此段相伺候條至急何分ノ御指令ヲ仰キ候也

乙号

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中勾留ノ儀ニ付伺之趣ハ豫テ管轄裁判所ヨリ囑託ヲ爲シタルモノト看做シ一面ハ其裁判所ニ豫審若クハ公判ヲ求メ一面ハ其犯罪ノ地ノ檢察官ニ其旨ヲ通知スヘシ此旨及内訓候也

○明治十五年司法省丁第十四號達

大審院 裁判所

治罪法第百三十五條ニ從ヒ豫審判事ヨリ各控訴裁判所檢事

長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ若クハ其檢事長ヨリ管轄地内ノ檢事ニ搜查及ヒ逮捕ノ處分ヲ命スル時ハ本年本省丙第六號達第一號書式ニ照依シテ人相書ヲ作り其命ヲ受ケタル檢事ハ第二號書式ニ照依シテ逮捕狀ヲ作ルヘシ此旨相達候事

○明治十五年第十六号布告

樺戸集治監ノ囚人(假出獄免幽閉ノ者トモ)罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續ヲ便宜取計フヘシ但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○明治十五年司法省丙第八号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府ヲ除ク

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官ヘ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ謄本ヲ司獄官ヘ送達スル儀ト

心得ヘシ此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第九号達

大審院 裁判所

府縣 東京府
ヲ除ク

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡アリタル時
ハ其罪狀並刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省へ可届出此旨相達候
事

但剝奪公權ノ者ハ勳記勳章並年金票共收奪ノ上當省へ差
出ス可ク候事

○明治十五年司法省丙第十号達

大審院 裁判所

警視廳 府 縣 東京府
ヲ除ク

治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作りタル司法警察官ヲ

證人トスル時ハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出庭セシメ宣誓セ
シムルニ及ハス書記ノ次席ニ着テ陳述セシムヘシ此旨相達
候事

○明治十五年司法省丙第十一号達

大審院 裁判所

警視廳 府 縣 東京府
ヲ除ク

今般太政官ヨリ別紙ノ通御達ニ相成候條此旨相達候事
勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有
位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ當該檢察
官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ
但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルヲ得此旨相
達候事

○明治十五年司法省丙第十二号達

裁判所 警視廳
府縣 東京府
ヲ除ク

明治十四年^{十二月}當省甲第七号布告裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付スル費用ハ當分違警罪ニ限リ徵收セサル様取計フヘシ此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第十三号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣<sup>東京府
ヲ除ク</sup>

軍人軍屬役限内老疾取贖及存留養親ノ儀別紙ノ通陸軍省ヨリ太政官ヘ相伺朱書ノ通御裁令相成候條常人ニ付テモ右ニ照準處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事
別紙 陸軍省伺

軍人軍屬役限内老疾取贖及存留養親等ノ儀ニ付伺

陸軍々人屬ノ犯罪舊軍律ニ依リ流刑徒刑等ニ處スル者其刑期中ハ總テ普通役人同様ノ取扱ニテ即チ役限内老疾取贖及存留養親等願出候者ハ常律ニ照シ差許來候處新刑法ニ於テハ右等廢止セラレ候ヘ共客年十二月以前既ニ願出調査中ニ係ル者ハ勿論其未タ願出サル者及新律實施ノ後陸軍刑法第二條新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ舊法ニ照シ處分致候方至當ト相考候間何分ノ御指揮有之度此段相伺候也
朱書伺之通

○明治十五年司法省甲第九號達

府縣

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者郷里ニ於テ罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受タル者ハ其罪狀並ニ刑名ヲ詳記シ所管鎮臺若クハ營所ヘ通牒可致此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第十四号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府ヲ除ク

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ昨明治十四年丙第二十号ヲ以テ相達置候處ノ始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

○明治十五年司法省丙第十六号達

大審院 裁判所

府 縣東京府ヲ除ク

從前褒章ノ儀ハ褒章條例第四條ニ依リ行政官ニ於テ沒收致シ來リ候處右ハ本年三月當省丙第九号達ニ照準シ處分スヘシ此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第十八号達

大審院 裁判所

警視廳 府 縣東京府ヲ除ク

治罪法第二百六十條ノ場合ニ於テ被告人ヲ重罪裁判所開廳ノ地ノ監倉ニ移ス時ハ檢事ハ前令狀ニ檢事長ノ命令書ノ寫ヲ添ヘテ重罪裁判所檢察官ニ送致シ其檢察官ハ是等ノ書類ヲ其地ノ監倉長ニ示シ被告人ヲ收監セシムルノ處分ヲ爲ス可シ其他法律ニ從ヒ被告人ヲ他ノ監倉ニ移ス場合ニ於テモ此例ニ準スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第二十号達

大審院 裁判所

警視廳 府 縣東京府ヲ除ク

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案

ノ裁判ヲ言渡迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法第四十三條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘシト雖ヒ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所々在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間(公告シタル日ヨリ起算ス)ニ所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直チニ之ヲ還付スヘシ此旨爲心得相達候事

但檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキモノト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置ク可シ

○明治十五年第二十三号布告
憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

○明治十五年司法省丙第二十一号達
大審院 裁判所

警視廳 府縣 東京府ヲ除ク
東京憲兵本部

被告事件重罪ナル時ト雖ヒ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處ス可キ者ハ總テ輕罪裁判所ノ管轄ニ属スル儀ト心得可シ此旨相達候事

○明治十五年司法省丙第二十二号達
大審院 裁判所
警視廳 府縣 東京府ヲ除ク
東京憲兵本部

治罪法第九十六條ニ從ヒ告發シタル官吏ヲ證人トシテ公庭へ呼出ス時ハ本年本省丙第十号達ニ準シ處分スル儀ト心得此旨相達候事
但巡查及等外吏ハ此限ニアラス

○明治十五年司法省丁第三十三号達

大審院 裁判所

審理ノ都合ニ依リ檢證ノ爲メ囚人召連他所出張候節ハ其他ノ警察官ヘ護送引致方通知可致尤右護送ニ屬スル費用ハ渾テ警察費ヨリ支辨ノ答ニ候條此旨相達候事

○明治十五年第三十号布告

札幌根室ノ各始審裁判所ニ於テハ當分ノ内治罪ノ手續便宜取計且重罪犯ハ之ヲ審訊シ證憑擬律按テ具ヘ函館控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告ス可シ

○明治十五年司法省丙第二十四号達

大審院 裁判所

警視廳 府 縣 東京府ヲ除ク

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉輾シテ他人

ノ手ニ在リ及ヒ沒收スヘキモノ若クハ證憑ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アルマテ其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

○明治十五年司法省丁第三十四号達

大審院 裁判所

明治十四年丁第二十六号ヲ以テ相達置候使丁規則第九條並ニ第十一條左之通改正候條此旨相達候事

第九條 送達賃錢ハ地方ノ便宜ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定限ヲ立ツ可シ

但シ送達書ニ賃錢ノ高ヲ附記ス可シ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂フ可シ

○明治十五年司法省丙第二十五号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府
ヲ除ク

刑法治罪法實施已來刑事ニ付出庭セシメタル證人鑑定人等ノ旅費日當等一時官廳ニ於テ立換渡ヲ爲シ候義モ有之候處該旅費日當等ハ則テ裁判費用ニシテ總テ被告人ノ擔當スヘキ者ナルハ勿論ノ義ニ付自今右立換ヲ爲スニ不及ル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令及内訓本文ニ抵觸スル件々ハ都テ取消候事
○明治十五年司法省丙第二十六号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府
ヲ除ク

治罪法第三百七條第二項公訴裁判費用官ニ於テ擔當スヘキ

場合該金額ハ裁判所ヨリ支出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル件々ハ取消候事

○明治十五年司法省丙第三十二号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府
ヲ除ク

東京憲兵本部

總テ官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付證明セシムル爲メ其呼出ヲ要スル時ハ本年當省丙第十号ニ準シ取扱フ可シ此旨相達候事

但シ巡查及ヒ等外吏ノ着席ハ此限リニ在ラス

○明治十五年第五十三号布告

治罪法第二百六條第二百七條中二十四時内ト有之處己ムヲ

得サル場合ニ於テハ當分ノ内五日以内ニ於テスルコトヲ得

○明治十五年司法省丁第五十六号達

大審院 裁判所

内國ノ勳章ヲ賜リタル外國人并外國ノ勳章ヲ佩ヒタル内國人身分取扱ノ儀ニ付別紙ノ通太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

別紙 司法卿伺

内國ノ勳章ヲ賜リタル外國人并外國ノ勳章ヲ佩ヒタル内國人身分取扱方ノ儀伺

内國ノ勳章ヲ賜リタル外國人ハ内國人ノ帶勳者ト取扱ヲ同ス可キハ固ヨリ言テ埃タス亦内國人ニシテ外國ノ勳章ヲ帶ル者ニ於テモ勳章ハ外國ノ勳章ナレトモ其佩用ヲ許奪スル

等ハ我カ政府ノ所置ニ係ルノミナラス其外國ノ勳章ヲ受ケタル者ハ該勳章ニ相當スルノ榮譽ヲ有スレハ之ニ相當スルノ取扱ヲ爲スヘキ者ト存候得共右ハ身分取扱上ニ關係スルコトニシテ別ニ可據法例ナキヲ以テ相伺候條果シテ其取扱ヲ内國帶勳者ト等シクヌ可キ義ニ候ラヘハ外國ノ何々勳章ハ内國ノ何々勳章ニ相當スル者ナルヤ此段合セテ至急何分ノ御指令有之度候也

朱書

伺之趣第一項伺ノ通第二項外國ノ勳章ヲ受クル内國人ハ其受佩ヲ許否スルニ止ルモノニシテ身上特別ノ取扱ヲ要セサル儀ト心得可シ

○明治十五年司法省丙第三十三号達

始審裁判所

府縣東京府
ヲ除ク

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルハ本年當省丁第五号達中檢事處分表雛形ニ準シ檢事ノ事務ヲ代理スル警部ニ於テ之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事ニ差出シ輕罪裁判所檢事ハ之ヲ取纏メ共ニ差出スヘシ此旨相達候事

○明治十五年司法省丁第二號達

大審院 裁判所

陸海軍治罪法御制定以前舊慣ニ據リ治罪手續執行ノ儀陸海軍兩省ヨリ太政官ヘ別紙ノ通相伺朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

陸軍治罪法御頒布相成迄軍人軍屬犯罪ニ係ル治罪

陸軍新刑法ノ儀ハ不日御頒布普通刑法ト共ニ來十五年一月一日ヨリ實施之御沙汰可相成就テハ治罪法ノ儀モ草案取調

過日上申ニ及候處右ハ現今御詮議中ニテ年内餘日モ無之或ハ刑法上共ニ實施之運ニ相成間布哉ト竊ニ恐察仕候果ノ然ル時ハ軍人軍屬ノ犯罪ニ係ル總テ治罪ノ手續ハ追テ治罪法御頒布相成迄一切舊慣ニ依リ處分致シ可然哉尤モ別紙記載之箇條ハ慣例ニモ據リ難ク候間至急御詮議ノ上何分之御指揮有之度此段相伺候也

裁令

陸軍治罪法施行日マテ舊慣ニ依リ治罪手續ヲ執行候儀ハ伺之通

第一條 伺之通但書數罪俱發ノ例ニ從フ可シ

第二條 軍人軍屬ハ軍衙ニ於テ處分シ常人ハ司法々衙ニ付ス可シ

第三條 軍人軍屬任官若クハ就役前罪ヲ犯シ在官現役中

發覺スル者ハ軍衙ニ於テ處分シ其在官現役中罪ヲ犯シ
免官若クハ免役ノ後發覺スル時陸軍刑法ヲ犯シタル者
ハ軍衙ニ於テ處分シ普通刑法ヲ犯シタル者ハ司法々衙
ニ付ス可シ

第四條 伺之通

第五條 歸休兵及豫備後備兵召集ノ期ニ後ル、者ハ軍衙
ニ於テ處分ス可シ

第六條第七條第八條 伺之通

別紙

軍人軍屬ノ重罪輕罪ハ總テ軍衙ニ於テ處分致シ可然哉
但重罪輕罪ト俱ニ發スル違註罪ハ如何相心得ヘキヤ
軍民共犯ニ係ル時ハ軍人軍屬軍衙ニ於テ處分致シ常人ハ司
法々衙ニ付シ可然哉將又軍民ノ正從犯ニ係リ軍民正犯ナル

ハ軍衙ニ於テ從犯ヲ併セ之ヲ審判致シ軍民共ニ正犯ナル
時ハ先キニ告訴告發ヲ受タル法衙ニ於テ審判致シ可然ヤ
軍人軍屬任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル
者ハ軍衙ニ於テ審判致シ其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ
免役ノ後發覺スル者ハ之ヲ司法々衙ニ付シ可然ヤ
歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ
舊罪發覺スル者ハ軍衙ニ於テ審判致シ犯罪解散ノ後發覺ス
ル時ハ司法々衙ニ付シ可然ヤ
歸休兵及ヒ豫備後備召集ノ期ニ後ル、者ハ司法々衙ノ審判
ニ付シ可然ヤ
新陸軍刑法第二十七條ニ掲クル所ノ理事ハ評事若クハ主理
ヲ以テ之ニ充テ裁判長ハ右鎮台營所ニ於テハ軍法會議ノ議
長ヲ以テ之ニ充テ可然ヤ

新陸軍刑法ニ掲クル所ノ流刑及ヒ禁獄輕禁錮拘留ニ處スル者ハ總テ現今禁錮ノ取扱ニ徒刑懲役ニ處スル者ハ現今徒刑ノ取扱ニ重禁錮ニ處スル者ハ現今戒役取扱ニ致シ可然ヤ軍人ハ軍屬ヲ監視ニ付シタル時其執行處分ノ儀ハ其地方警察署ニ付シ可然ヤ別紙

海軍治罪法御制定マテ假手續ニ因リ取扱方ノ儀ニ付伺海軍治罪法御制定ノ儀本月七日付往出第一五七二號ヲ以テ上請仕置候處右御審査御發令相成候ニハ暫ク日數ヲ要候趣ニ承及候就テハ新刑法ノ義ハ常律共ニ實施不相成ハ不都合有之候間右刑法實施ノ日マテ治罪法御制定不相成時ハ當分別紙數項ノ手續ヲ以テ裁判事務取扱其他ハ都テ從來ノ慣例ニ依リ施行致シ候ラハ、差支無之見込ニ候條御免許有之度

此段伺出候也

裁判事務取扱手續

海軍々人屬ノ海軍刑法及ヒ普通刑法ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ海軍法衙ニ於テ審判ス可シ常人ノ海軍刑法ヲ犯シタル者前同斷海軍々人屬普通刑法ノ違警罪ヲ犯シタル者重罪輕罪ト共ニ發シタル時前同斷海軍々人屬ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シ軍人屬正犯ニシテ常人從犯ナル時モ前同斷海軍々人屬ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シ俱ニ正犯ナル時海軍法衙ニ於テ最初其取調ニ着手シタル時ハ前同斷流刑禁獄禁錮ノ刑ニ該ル者ハ海軍獄舍ニ錮シ從來ノ禁錮ノ如ク取扱ヒ徒刑懲役ニ該ル者ハ從來ノ徒刑ノ如ク取扱ヒ重

禁錮ニ該ル者ハ從來ノ戒役ノ如ク取扱フ可シ
附加刑中禁治産監視ノ處分ハ地方警察官ニ托ス可シ
裁令

海軍治罪法施行日マテ舊慣ニ依リ治罪手續ヲ執行候儀ハ
伺之通

第一條 伺之通

第二條 常人ト雖ル海軍刑法ニ記載シタル罪ヲ犯シタル
者ハ軍衙ニ於テ審判ス可シ

第三條 數罪俱發ノ例ニ從フ可シ

第四條 第五條 軍人軍屬ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シタ
ル時軍人軍屬ハ軍衙ニ於テ處分シ常人ハ司法法衙ニ付
ス可シ

第六條 在官在役中罪ヲ犯シ免官免役後發覺シタル時海

軍刑法ヲ犯シタル者ハ軍衙ニ於テ處分シ普通刑法ヲ犯
シタル者ハ司法法衙ニ付ス可シ

第七條 伺之通

第八條 監視ノ執行ハ其地方警察署ニ付ス可シ

○明治十五年司法省丙第三十四號達

大審院 裁判所

府縣東京府
ヲ除ク

樺戸及空知ノ集治監ニ拘禁中ノ囚人ニ對シ訊問ヲ要スル等
ノコトアレハ本年第十六號同第四十一号公布ノ趣モ有之ニ付
該監司獄官へ囑託スルヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事
○明治十六年第三号布告
始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内始審裁判
所長ヲ以其裁判長ト爲スコトヲ得

但沖繩縣札幌縣根室縣ノ儀ハ從前ノ通タル可シ
○明治十六年司法省丁第五号達

大審院 裁判所

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人ヘ書類ヲ送達スヘキ際是迄戸長ニ於テ使丁賃錢操換渡シヲ爲シ候儀モ有之候處自今右操替渡ヲ要スル節ハ一時裁判所ニ於テ操替置追テ本人ヨリ償却セシムヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○明治十六年司法省乙第四號達

府 縣

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人ヘ書類送達ノ節戸長役場費ヲ以テ使丁ヘ送達賃錢操替相渡候儀自今不相成候條此旨相達候事但從前ノ指令本文ニ抵觸スルノ廉ハ取消

○明治十六年司法省通牒

各裁判所

大審院長判事玉乃世履伺讒謗律第七條ノ儀ニ付別紙朱書ノ通指令被及候間御心得迄此旨御通牒候也

明治十四年第七十二号布告第六條ニ法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ストアルヲ以テ見レハ讒謗律第七條ノ若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ムルヲ中止シ以テ事實ノ決テ俟テ其被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ罪ヲ論セストアルハ刑法ニ正條アルヲナク且重複ナキニ因リ發止ニ屬セサルモノ、如シ疑義決兼候間何分ノ御指令有之度候也
指令

伺之趣讒謗律第七條ハ新法實施ニ付全ク消滅シタルモノトス

○明治十六年司法省通牒

大審院 裁判所

警視廳

舊新發田始審裁判所檢事伺刑事上告中原裁判官ニ於テ保釋責付處分ノ件別紙ノ通り指令有之候ニ付爲御心得及御通牒候也

別紙 新發田始審裁判所檢事伺

刑事上告中ニ在テ原裁判ノ刑期日數ヲ經過シタル者取扱方ノ義治罪法中ニ明文無之就テハ斯ノ如キ場合ニ於テハ即今尙ホ明治九年第五十號御達ニ依リ假リニ出獄責付ノ處分ヲ爲シ可然哉

前項果シテ責付ノ處分ヲ爲スヘキモノトスレハ檢事ヨリ書記局ヘ指揮シテ處分致サセ其取扱方ハ渾テ明治十四年第四十七號布告ニ依準シ可然哉將タ該布告ニ依準スルモ第三條責付ヲ取消等ノ處分ハ爲シ難キ儀ニ可有之哉

指令

伺ノ趣上告中原裁判ノ刑期ヲ經過スルト否トニ拘ハラヌ原裁判官ニ於テ治罪法第二百十條以下ニ依リ保釋責付ノ處分ヲ爲スヲ得可シ

○明治十六年司法省通牒

大審院 各裁判所

司法警察官吏監臨中犯人ト認ムル者ハ條例ニ據リ夫々處分スルヲ得ルハ當然ノ義ニ有之候處犯人多クハ言語上ニアルヲ以テ其犯證ヲ悉ク形跡ニ取メントスルハ不可得ノ事ナリ

抑監臨官公衆ノ前ニアリテ其視聽スル所ヲ檢舉スルハ現行
犯ノ尤著明ナルモノナルニ監臨官一面ハ中止解散ヲ命シ一
面ハ法律ノ處分ヲ求ムルニ方リ裁判ニ於テ或ハ之カ無罪放
免ノ申渡シヲナス等ノ事有之甚タ不可然義ニ付今般第八九
九號ノ内訓ニ被及候條右邊厚ク注意可有之候様長官ノ命ニ
依リ尙又及御通知候也

○明治十六年司法省通牒

大審院 控訴裁判所

始審裁判所

重罪裁判所開廳中檢事差間有之節代理等ノ儀ニ付神戸始審
裁判所檢事ノ伺ニ對シ別紙ノ通御指令相成候條爲心得此段
及御通牒候也
別紙

重罪裁判所開廳中本廳檢事疾病若クハ事故有之差間候
節代理ノ義ニ付請訓

第一條 重罪裁判所開廳ノ期ニ際シ本廳檢事疾病若クハ事
故ニ因リ其職務ヲ行フ能ハサル場合ニ於テハ檢事補中上
席ノ者ヲ以テ代理爲致不苦儀ト心得可然哉

第二條 若シ支廳ニ於テ重罪裁判所開廳ノ場ニ於テ本廳檢
事疾病若クハ事故ニ依リ出張スルト能ハサル場合ニ於テ
其支廳詰ノ檢事ヲシテ代理セシメ又ハ本廳詰檢事補中上
席ノ者ヲシテ出張セシムル等適宜取計候事ヲ得ル儀ト相
心得可然哉

第三條 前二ヶ條ノ場合ニ於テハ豫メ知り得可キ時ハ控訴
裁判所檢事長ヘ其旨ヲ申立同官ノ命令ニ從ヒ若クハ急速
ノ場合ニ於テハ代理セシメタル後其旨ヲ控訴裁判所檢事

長へ届出ルモ不苦儀ト相心得可然哉
右豫テ伺置度至急仰御指揮候也

指令

第一條 伺ノ通

第二條 支廳詰檢事ニ代理ヲ囑ヌ可シ

第三條 控訴裁判所檢事長へ通牒スルニ止リ命令ヲ俟ニ
及ハス

○明治十六年第八號布告

豫審判事裁判所ニ於テ豫審ヲ爲ス時ハ當分ノ内書記ノ立會
ナクシテ被告人證人ヲ訊問スルヲ得

○明治十六年司法省丙第一號達

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府
ヲ除ク

刑事裁判上在本邦外國人公使館ニ備ハレタル内國人ニ對シ
發ス可キ令狀ハ明治七年第百二十八号公達ニ據リ公使館ニ
テ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其唯諾ヲ經ルノ手
續ハ明治十四年第五十三号公達(五十三号各縣ヨリ我國在留各國
公使ニ對スル公務ノ照會ハ外務
卿ニ通牒シ外務卿ヨリ各公使へ)
照會候儀ト可心得此旨相達候事ノ旨モ有之ニ付大審院並ニ裁判
所ハ其事柄ヲ明記シ當省へ申出テ指令ノ上其令狀ヲ發シ又
警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務卿へ申出テ右唯諾ヲ經
ルノ手續ヲ了シ令狀ヲ執行セシム可キ儀ト可心得爲念此旨
相達候事

但本文令狀執行者ハ明治七年第百二十八号公達ノ旨趣ニ
據リ聊不都合ノ取計無之様厚ク注意セシムヘシ

○明治十六年司法省通知

大審院 控訴裁判所

始審裁判所

一ノ重罪裁判所ヲ同時兩地ニ開廳ノ件ニ關シ大阪控訴裁判所長ノ請訓ニ對シ別紙ノ通御内訓相成候條爲御心得此段及御通知候也

愛媛重罪裁判所長之儀ニ付請訓

松山始審裁判所高松支廳ニ於テ第一期重罪裁判所ヲ開キ同重罪裁判所長ノ儀ニ付愛媛重罪裁判所長ヨリ別紙ノ通申出候處本年第五八七号ノ御内訓ハ該重罪裁判所長事故差支ヘノ場合代員ヲ命スルノ儀ニ之有然ルニ右申出ノ趣ニテハ現今愛媛重罪裁判所開廳事務取扱居候折柄猶又高松支廳ニ於テ重罪裁判所相關キ候儀ニテ同時愛媛重罪裁判所長兩名ニ相成隨テ一ノ重罪裁判所ヲ兩地ニ開候様ニ相成不都合ト存候得共一應何分ノ御指揮ヲ蒙リ度至急候御内訓ヲ仰キ候也

内訓

一ノ重罪裁判所ヲ同時兩地ニ開ク儀ニ付別紙請訓ノ趣ハ書面見込ノ通ニ候條成ヘク本年一月廿五日第三五二号内訓ノ旨趣ニ從ヒ本廳ヘ纏メテ之ヲ審判シ猶不得止支廳ニ於テ開廳スルヲ要スル節ハ前後何レ歎便宜ニ據リ一方開廳ノ後開廳スヘキ様愛媛重罪裁判所長ヘ相示スヘシ此段及内伺訓候事

○明治十六年司法省通牒

大審院 裁判所

警視廳 府縣東京府ヲ除ク

治罪法第二百六十一條解釋ノ儀ニ付東京控訴裁判所檢事長岡本豐章ノ伺ニ付シ別紙ノ通御指令相成候ニ付此段爲御心得及通牒候也

豫審ニ於テ法律上當サニ罰スヘキノ事件ニ對シ誤テ罪トナ
ラサル者トシ治罪法第二百二十四條ニ依リ免訴ノ言渡ヲ爲
シタル者アリ其言渡既ニ確定シタル後ト雖モ法章及ヒ條理
等ヲ以テ該言渡ノ不當ナルコトヲ證明シ得ルモ即チ法律上
新ナル證據ナル者ニ付假令事實上新ナル證據ナキモ同第二
百六十一條ニ基キ會議局ヲ經由シ再訴ノ手續ヲ爲スモハ實
際法律ノ活用大ニ其宜ヲ得ヘシト雖モ若シ必シモ新ナル事
證アルニ非サレハ假令新ナル法證アルモ再訴スヘカラサル
者トモハ現ニ有罪人ニシテ法網ヲ脱フル者アルモ復タ之ヲ
如何トモスル能ハス實際上甚タ不都合ト被存候且又同第二
百六十一條但書ニ於テハ單ニ新ナル證據云々トアルニ止マ
リ事實上ノ證據ト法律上ノ證據トニ就キ別段區別無之以上
ハ寧ロ該兩證據ヲ含蓄シタル者ト看破シ前顯ノ場合ニ在テ

ハ尙ホ再訴ノ手續ヲ爲シ可然哉目下差掛リタル事件有之候
間至急何分ノ御指令有之度此段相伺候也

指令

伺之通

○明治十六年司法省通牒

大審院 裁判所

府縣 東京府
ヲ除ク

監視日數起算方ノ儀ニ付別紙甲号ノ通警視總監樺山資紀ヨ
リ伺出乙号ノ通御指令相成候間爲御心得及御通牒候也
甲号

刑法第五十一号第一款犯人自カラ上訴シテ其上訴正當ナル
事及第二款檢察官上訴ノ場合ニ係ル刑期計算方ハ例ヘハ爰
二十六年三月一日重禁錮三ヶ月監視六ヶ月ニ處セラレタル

犯罪事件ニ付キ上訴ヲ爲シ八月一日更ニ重禁錮一ヶ月監視
六ヶ月ニ處セラレタルトキハ前判宣告ノ日即チ三月一日ヨ
リ刑期ヲ起算スル儀ニ可有之因テ其監視ハ刑法第四十條第
一項ニ據リ主刑ノ終リタル日即チ三月三十一日滯獄中ヨリ
起算シ執行致來候且又客年十月三日内務卿へ監視中ノ者嫌
疑ノ廉ヲ以テ檢事へ引渡シタル末豫審廳ニ於テ免訴ノ言渡
ヲ受ケタルキハ滯獄日數即チ警察署へ引致ノ當日ヨリ免訴
ノ言渡ヲ受ケタル日マテ監視限内へ算入可致哉ノ伺ニ伺ノ
通ト指令相成候ニ付旁前顯ノ如ク確信致居候處本年一月八
日宇和島輕罪裁判所ヨリ御省へ重禁錮三ヶ月監視六ヶ月ニ
處セラレタル犯罪事件ニ付檢事ヨリ上告ニ及ヒ大審院ニ於
テ上告ヲ棄却シ上告中主刑滿限トナリタル場合ニ於テ監視
日數起算方向ニ出監ノ日ヨリ起算スヘキモノトスト御指令

有之候ニ付疑義相生シ候條至急何分ノ仰御指令候也

乙号

伺ノ趣勾留中ノ日數ヲ主刑期限ニ算入スヘキ場合ハ附加
刑ナル監視ノ期限ニモ亦算入スル儀ト心得ヘシ

但本文ニ牴觸スル指令内訓ハ取消候事

○明治十六年司法省通牒

各裁判所

裁判上刑期計算方ノ儀ニ付神戸輕罪裁判所洲本支廳檢事補
江口三郎ヨリ甲号ノ通伺出タルニ依リ乙号ノ通御指令相成
候間爲御心得此段及御通牒候也

甲号

茲ニ竊盜事件ノ裁判言渡ヲ受タル被告人其言渡ヲ不當トシ
上告申立タル末治罪法第四百十七條ノ期限ヲ失シ趣意書差

出セシ者アリ素ヨリ尋常上告ト同様大審院ノ判決ヲ經ルハ
勿論ニ候モ前段法律上ノ期限ヲ失セシニヨリ裁判言渡ハ既
ニ確定セシモノニシテ其執行ハ停止スヘカラサルモノト思
考致シ候然ルニ當時檢査ニ於テ上告ノ爲メ之カ執行ヲ停止
スル數日ニ及候處其果シテ停止スヘカラサルモノトセハ今
之ヲ執行スルニ當リ前停止ノ日數ハ刑期ニ算入セス目下執
行ノ當日ヨリ起算スヘキ儀ニ候哉將同法第四百十七條ノ期
限ヲ經過シタル日ヨリ起算スヘキ儀ニ候哉疑義ヲ生シ候右
ハ差掛候儀ニ付至急何分ノ御指令ヲ仰候也

乙號

伺之趣治罪法第四百十七條ノ期限ヲ經過シテ趣意書ヲ差
出シタルハ原裁判所ニ於テ其上告ヲ却下シ其刑期ハ却下
ノ日ヨリ起算スヘシ

○明治十六年司法省丁第十五号達

大審院 裁判所

明治八年第四百十八号公達海軍退隱令並ニ明治九年第九十
九號公達陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル元軍人及其扶助料
ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ受
ケ並ニ該恩給ヲ有スル軍人ニシテ治罪法第二百七十三條ニ
據リ公權停止ノ處分ヲ受タル者アルキハ其都度直ニ大藏省
へ通知可致此旨相違候事

但新法實施已後是迄本文ノ處分ヲ受タル者有之候ヲハ、
其旨直ニ大藏省へ通知可致事

○明治十六年司法省丙第二号達

大審院 裁判所
警視廳 府 縣 東京府
ヲ除ク

勅奏官華族并ニ有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通太
政官へ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候
事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第
十一號達ト可相心得事

別紙

勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及奏任官華族帶勳有位
ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治
十五年三月二十二日附ヲ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘ
キ者ト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ
刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セサル節ハ則換刑シテ輕禁錮
又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有之候條右本人ヲ出廷セシムル場

合及ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ等ハ矢張其
時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

朱書

伺之通

但十五年三月二十二日附其省へ達中帶勳有位者トアル
ハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得事

○明治十六年司法省丁第二十一號達

大審院 裁判所

明治十四年^月第十二第七十五號公布西洋形船舶長運轉手機關手
免狀規則ニ據リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處
シタル節ハ刑名並ニ宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度直ニ農商務
省へ通牒ス可シ此旨相達候事

○明治十六年司法省丁第二十二號達

大審院 裁判所
布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ヨリ別紙之通御達有之候
條此旨相達候事

(別紙)

司法省

別紙内務省伺へ朱書ノ通指令及ヒ候條爲心得此旨相達候事

太政官

(別紙)

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付別紙寫之通函館縣令時任爲基ヨ
リ伺出右奥尻郡ノ儀ハ本郡役所ヲ隔ツ一孤島ニシテ冬春ニ
至リテハ海路危險ノ爲メ航通相絶候次第モ有之趣ニ付實際
他郡ト同視難致場所ト被存候條申出之通聞届候様致度別紙
圖面一葉^略之相添此段相伺候也

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

追テ本文御允可ノ上ハ以後他府縣ヨリ同様ノ儀申出候節
ハ當省限リ取計候様致度此段相伺候也

朱書

伺之通

但追書ノ趣ハ難聞届候事

(別紙寫)

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀今般第十七號布告ヲ以テ制定相成候
處其第一條第四項ニ凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ
起算スト有之然ルニ尙管下久遠郡役所所轄奥尻郡ノ儀ハ本
郡ヨリ十五海里ヲ隔テタル一孤島ニシテ常ニ小艇ヲ浮ヘ往
復ニ便スルヲ以テ晴朗順風ノ日ニ在テハ數時間ニシテ達ス
ルヲ得ルト雖モ偶風浪アルニ際シテハ數日阻滯スルトモ往

々有之殊ニ冬春二季ニ至リテハ海路危険ノ爲ヨリ從來十一月ヨリ春彼岸マテハ航通相絶候次第ニテ實際他郡ト同一視難致場所ニ付該島ニ限リ戸長役場ヘ到達ノ翌日ヨリ起算候様仕度爲御参考別紙船路畧圖(畧之)相添此段相伺候也

函館縣令時任爲基

内務卿山田顯義殿

○明治十六年司法省丙第四号達

大審院 裁判所

警視廳 府 縣 東京府ヲ除ク

監倉若クハ獄舎ニ在ル被告人ヘ送達スヘキ渾テノ書類ハ裁判所ヨリ監獄署ヘ送達ノ手續ヲ囑託シ該署ニ於テハ規則ニ從ヒ本人ニ送達シ令狀ハ其正本其他ハ送達書ノ一本ヲ裁判所ヘ返還スヘキ様取計ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ渾テ取消候事

○明治十六年司法省丙第六号達

府縣 東京府ヲ除ク

陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名爵科ヲ詳記シ其都度本人所管(隊付ナレハ該隊長)ヘ速ニ通報可致此旨相達候事

○明治十六年第三十三号布告

明治十四年^{十二月}第七十八号布告ヲ廢シ自今重罪裁判所ノ管轄ハ各始審裁判所管内ヲ以テ一區劃ト定メ各其地名ヲ冒シ其重罪裁判所ト名稱ス

但沖繩縣札幌縣根室縣地方ハ從前ノ通

○明治十六年第三十九号達

官省院廳府縣

本年六月第二十二号布告ノ旨ニ依リ勳章年金褫奪及停止取扱
手續左ノ通相定候條此旨相達候事

勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、キハ榮譽ヲ汚辱
シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ該ル者

但重禁錮以下ノ刑ニ該ル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 懲戒例及免黜條例ニヨリ免官シタル者

第三項 素行終マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 勳章ヲ有スル者ニハ先ツ其勳章勳記年金票佩用免
許狀ヲ褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノトス

第三條 第一條第一項ニ觸ル、者アルトキハ裁判管轄長官
ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ其罪狀及刑名ヲ賞勳

局總裁へ具申スヘシ

第四條 第一條第二項第三項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長
官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁へ具申スヘシ

第五條 賞勳局總裁ハ其具狀ヲ審査シ重禁錮以上ノ刑ニ該
ル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑又ハ第一條第二項第

三項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ依テ其褫奪ノ當否ヲ論
定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第六條 褫奪ノ裁可アリタルトキ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作
リ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人へ傳達セシ

ム
褫奪ニ及ハサルトキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪ノ具申ヲ爲シ

タル長官へ通知スヘシ

第七條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫

奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票佩用免許狀ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納スヘシ

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

但公訴權消滅スルカ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦之ヲ申告スヘシ

○明治十六年司法省丁第二十三号達

大審院 裁判所

今般陸軍治罪法施行相成候ニ付左ノ通陸軍卿ヨリ照會有之候條爲心得此旨相達候事

已決重罪囚其他裁判宣告ニ依リ軍籍ヲ脱シタル者ト雖モ

犯罪之レ有ル時ハ舊慣ニ據リ軍衙ニ於テ審判致來候處今般陸軍治罪法御頒布ニ付テハ特例アルモノヲ除クノ外ハ軍衙ニ於テ審判シ得ヘカラサル者ニ有之候間右已決囚ニシテ重輕罪ヲ犯ス者等有之候時ハ地方管轄裁判所ニ送付セシメ候間豫メ御置相成度此段及御照會候也

○明治十六年司法省丁第二十五號達

大審院 裁判所

陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ有スル者及ヒ扶助料ヲ受ル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪ノ處分ヲ爲ス時ハ恩給登錄寫帖ヲ收奪シ宣告文ノ寫相添ヘ其都度速ニ當省ヘ差出ス可シ此旨相達候事

○明治十六年司法省丁第二十六号達

始審裁判所

豫審事件中被告人ノ属籍氏名等分明ナラスシテ豫審終結ノ
 言渡ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テ期滿免除ニ至ル迄猶ホ豫審
 判事ノ手ニ留置クモノハ通常ノ未決件數ト混淆セサル爲メ
 明治十四年丁第三十四号達第二号豫審既決事件表中未濟ノ
 下及ヒ明治十五年ノ丁第五号達豫審第一表末段ニ於テ豫審
 中止ノ一區ヲ設ケ其件數ノミヲ記入スヘシ此旨相達候事
 ○明治十六年司法省丁第二十七號達

裁判所

明治十四年當省丁第八號ヲ以テ後備軍編入ノ者郷里ニ在テ
 罪ヲ犯シタル時ハ所轄鎮臺營所へ照會致ス可キ旨相達置候
 處今般陸軍卿ヨリ照會之趣有之候ニ付右達ハ取消候條此旨
 相達候事
 ○明治十六年司法省丁第二十八号達

裁判所

重輕罪登記簿ノ義ニ付テハ明治十五年丁第三十一号并ニ同
 年丁第六十号ヲ以テ相達置候處猶ホ一層注意ノ爲メ左ノ通
 登記簿徴收箇條并ニ取扱順序増補候條自今右ニ準シ各表式
 ノ材料ニ適應スヘキ様鄭重ニ記載スヘシ此旨相達候事
 重輕罪登記簿書例并取扱順序
 重輕罪公判登記簿徴集箇條書
 (第一條ヨリ第八條マテ之ヲ略ス)

○明治十六年司法省丁第二十九号達

大審院 裁判所

布告布達施行期限ノ義ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條
 此旨相達候事

(別紙)ハ山形縣伺ニテ明治十六年司法省丁
 (第二十二号達)ト同様ナルヲ以テ之ヲ略ス)

○明治十六年司法省丁第三十号達

大審院 裁判所

布告布達施行期限ノ義ハ本年第十七号公布ノ旨モ有之候處
沖繩縣ノ儀ハ該縣到達ノ翌日ヨリ十二日ヲ以テ施行期限ト
ナシ且該縣管内那覇役所所轄ノ伊平屋島其他二島八重山島
役所所轄ノ與那國島其他一島並ニ宮古島役所々轄ノ多良間
島之六島ハ該島到達ノ翌日ヨリ施行期限起算ノ儀該縣令ヨ
リ其筋ヘ開申有之御聞置相成候旨通牒有之候條此旨相達候
事

○明治十六年司法省丙第八号達

警視廳 府 縣

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所ヘ
相達候條此旨爲心得相達候事

○明治十六年司法省丁第三十一号達

裁判所

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ
儀ニ付保釋責付ヲ爲ヌノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ
但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置ク可キ
トハ言ヲ待タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルトナ得ス
若シ己ムヲ得サル事由アルハ其旨ヲ檢事ニ申立許可ヲ
受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滯
在スルハ滯在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク
ヘシ
若シ同居人アラサルハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク可シ

第三條 代言人辨護人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルヲ得ス

第四條 治罪法第二百一十一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受タル者モ亦同シ

○明治十六年司法省丁第三十二號達

大審院 裁判所

華族ノ輩(位記ノ有無且戸主隱居子弟ニ拘ハラス)罪ヲ犯シ拘留シタル時ハ自今其院裁判所ヨリ直ニ宮内省へ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタルキハ其宣告書ノ謄本ヲ添へ是亦同様速ニ可致通牒此旨相達候事

○明治十六年第三十八號布告

樺戸空知兩集治監ノ囚人(假出獄免幽閉ノ者トモ)罪ヲ犯シ重罪ニ該ル者ハ

當分ノ内札幌始審裁判所ニ於テ明治十五年六月第三十號布告ニ準シ處分スヘシ

○明治十六年第三十九號布告

明治十四年^{十二}月第六十七号布告刑法附則第四章第四十九條左ノ通改定ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ依リ各地方適宜其額ヲ定ム可シ

日當五十錢以下

旅費一里十錢以下

止宿料一宿二十五錢以下

住居三里以外ノ地ニアル者ハ住復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當并ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セズ

○明治十六年司法省丙第九号達

大審院 裁判所

警視廳 府 縣 東京府ヲ除ク

刑事ニ付警察官ノ處分ニ属スル費用ハ起訴ノ前後ニ拘ハラ
ス裁判費用ニ相立サル者トス然レモ豫審判事ノ囑託ヲ受ケ
豫審處分ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス此旨爲心得相達候
事

但本文ニ抵觸スル指令内訓ハ取消候事

○明治十六年司法省丁第三十三号達

大審院 裁判所

本年第三十九号ヲ以テ刑法附則第四十九條改正ノ儀公布相
成候ニ付テハ各管内ニ於テ專ラ實際消費スル費額ヲ量定シ
豫メ金額ノ程限ヲ設ケ速ニ當省へ可届出此旨相達候事

○明治十六年司法省丁第三十四号達

大審院 裁判所

布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條
此旨相達候事

(達ハ山口縣伺ニシテ明治十六年司法省
丁第二十二号達ト同様ナルヲ以テ略之)

○明治十六年司法省丁第三十五号達

大審院 裁判所

明治十四年本省丁第七號達ニ依リ仕拂フヘキ費用ハ帳簿ノ
寫取若クハ取寄方ヲ請願シタル者ヨリ徴収シ若又請願者ナ
ク裁判所ノ見込ヲ以テ寫取候キハ原告人ヨリ取立其寫取若
クハ差廻ヲ爲シタル役所へ差送ルヘキ儀ト可心得此旨相達
候事

○明治十六年司法省丁第三十七号達

大審院 裁判所

明治十四年當省丁第三十四号達治罪法表式第二号豫審既決未決事件表裏面記載例第二項左ノ通改正候條自今右ニ準シ調成スヘシ此旨相達候事

既濟未濟日數二月以上ノ者アラハ二月以上三月未滿三月以上六月未滿六月以上一年未滿ト記スヘシ其一年以上ニ及フ者ハ一年毎ニ區別シテ記入シ未滿三月以上ニ及フ者ハ其理由ヲ説明スヘキ者トス以下各表之ニ準ス但豫審中止ノ分ハ其總件數ヲ記スルニ止マリ中止日數ヲ區別記入スルニ及ハス

○明治十六年第四十九号布告

治罪法第八十三條ニ記載スル事件ニ付高等法院ヲ開カサル時ハ通常裁判所ニ於テ裁判スルコトヲ得

○明治十六年司法省丁第三十九号達

本年第三十五号布告ヲ以テ明治十五年第三十九号布告被廢候ニ付同年當省丁第四十二号達ハ自然消滅ノ處今般内務卿ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省へ通牒方從前之通可取計此旨相達候事

○明治十六年司法省丁第四十号達

裁判所

民刑事各表並登記簿等進達ノ際爾後左ノ書例ニ準シ必ス目錄ヲ添フヘシ此旨相達候事

但民事訴訟表添書目錄モ亦左ノ如ク改正ス
各表并登記簿進達目錄凡例
(以下略之)

○明治十七年司法省丙第一號達

大審院 裁判所
警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)
東京憲兵本部

犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類ヲ差押フル儀ニ付甲號福井縣上申ニ對シ乙号ノ通及指令候條爾後戸籍帳等ノ差押ニ付テハ右ノ手續ニ依リ取扱フ可キ儀ト心得可シ此旨相達候事

甲 號

裁判所ニ於テ犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ要書差押ヘタル節還附方ノ儀ニ付上申

犯罪證據物トシテ裁判所ニ於テ戸長役場備置ノ戸籍又ハ土地建物船舶賣買讓渡質入書入奥書割印簿等ハ差押ヘ數十日間還附セサルコアリ然ルニ戸長役場ニ於テハ部下ノ

人民生死送入籍其他ノ異動加除ヲ要シ又ハ陸續公證ヲ請ヒ就中質入書入契約ノ如キ義務消盡ニ據リ公證取消ノ儀申出ル者アルモ本簿ヘ照較消印スル能ハサルヲ以テ其旨ヲ具ヘ簿册下戻方裁判所ヘ照會スルモ某事件ニ付差押ヘタル證據物ナル故一件落着迄還付シ難キ旨回答有之取扱上頗ル差支候趣ヲ以テ伺出候向アリ右ハ犯罪證據物トシテ差押ヲ要スルハ其一部分ニ止ル可クシテ而シテ該簿册ニ登載セル其他ノ事件全体ニ關シ行政上取扱ニ支障ヲ來シ不都合不少就テハ斯場合ニ於テハ其必要ノ廉ハ裁判所ニ於テ謄寫シ本書加除スルヲ得サル様掛紙契印等ヲ爲シ而シテ簿册ハ直ニ還付スヘク様致度御詮議ノ上何分ノ御指揮相成度此段上申候也

乙 號

書面上申之趣聞届候尤裁判所ニ於テ謄寫セシ該書ヘハ戸長之レニ調印ス可シ若シ其謄寫ニ拘ハル加除等ヲ要スル時ハ其都度裁判所ノ許否ヲ得ヘキ儀ト可心得事

○明治十七年第五十七号達

官署院廳府縣

官吏職務上ニ係リ刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出頭スル時ハ治罪法ニ依リ旅費日當ヲ請求スルコト得ルト雖モ被告事件無罪又ハ免訴トナリタル時ハ請求セサル儀ト心得可シ但旅費日當ヲ請求シタル時其金額ハ雜收入トシテ大藏省ヘ納付ス可シ

○明治十七年司法省丙第二号達

大審院 裁判所

警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

已決囚ノ犯罪ニ付キ之ヲ裁判所ニ呼出シ審理ノ末刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ明治十五年當省丙第八號達ニ依リ檢察官ヨリ其宣告書ノ謄本ヲ司獄官ニ送達スルハ勿論自今已決囚ニ對スル其他ノ宣告ニ付テモ其豫審ニ係ルト公判ニ係ルトヲ問ハス書記ヨリ宣告書ノ謄本ヲ司獄官ニ送致シ又證人トシテ出廷セシメタル已決囚用濟ニ至リタル時ハ亦書記ヨリ其旨ヲ司獄官ニ報知ス可キ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○明治十七年内務省司法省乙第三十二号達

警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

刑法附則ニ從ヒ監視假免ハ警察官假出獄ハ典獄ヨリ其實ヲ具シ直ニ上申致來候處自今其所屬長官ヲ經由スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○明治十七年内務省司法省乙第三十四号達

警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)

罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナル時ハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルヲ得ル儀ト心得可シ此旨相達候事

○明治十八年第二号布告

明治十四年^月十二月第七十四号布告ヲ廢シ自今輕罪ニ係ル控訴ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ爲ス^{コト}ヲ得但治罪法中此規則ニ抵觸スル條件ハ當分ノ内施行セス

第一條 控訴ハ治罪法中本按ノ裁判言渡前ニ許シタルモノト雖モ總テ本按ノ裁判言渡アリタル後ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 控訴ノ期限内ハ控訴ヲ爲サスシテ直^ニ上告ヲ爲スコトヲ得但對手人控訴ヲ爲シタル時ハ此限ニ在ラス

控訴ヲ爲サスシテ直^ニ上告ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ニ對シ更ニ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

○問刑事控訴期限ハ五日内ナルニ付テハ明治十八年第二号布告前ニ刑ノ言渡ヲ受ケ未^タ五日ヲ經過セサル者ナルハ則チ控訴スル^{コト}ヲ得ヘキヤ 答明治十八年第二号ヲ以テ自今輕罪ノ控訴ヲナス^{コト}ヲ得ヘキ旨布告セラレタル以上ハ其發令前ニ刑ヲ言渡サレ未^タ

控訴期限ヲ經過セサル者ハ無論控訴ヲナス^{コト}ヲ得ヘキ者タリ

第三條 被告人公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴ヲ爲サントスル時ハ裁判費用ノ保証トシテ金十圓ヲ豫納スヘシ

第四條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

第五條 治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ裁判言渡ニ對ス

ル控訴ハ管轄輕罪裁判所ニ之ヲ爲スヘシ其控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ治罪法中輕罪ノ控訴ニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ

○明治十八年司法省丁第一號達

大審院 裁判所

自今官吏及ヒ陸海軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ爲シ又ハ扶助料ヲ受クル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處シタル時ハ直ケニ其宣告文寫書ヲ添ヘ當省ヘ可届出此旨相達候事

但本文中明治十六年當省丁第二十五號達ニ據テ可届出事件ニ係ル時ハ其旨ヲ明記シ宣告文寫書ハ貳通可差出儀ト心得可シ

○明治十八年司法省丁第二號達

裁判所

免訴無罪者ニ係ル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人等旅費日當其他ノ費用官ノ擔當ニ歸スルモノハ豫審終結及公判言渡ノ即日其請求書ヲ以テ書記局ヨリ會計課ヘ報告シ渡シ方取計フ可シ

但從前本文ノ通報告ヲナサス會計年度經過セシモノハ其遷延シタル事由書ヲ添付シ速ニ報告致ス可シ

○明治十八年司法省丙第一號達

警視廳 府 縣

東京憲兵本部

十六年十二月當省丙第十号ヲ以テ雜收入金上納書式相達置候内明細書書式ヲ削除シ自今差出スニ及ハス此旨相達候事
○明治十八年司法省丁第三号達

裁判所

十七年六月本省丁第十八号達收入金上納書式ノ内第二號第四号明細書書式ヲ削除シ自今差出スニ及ハス此旨相達候事
○明治十八年司法省丁第四号達

大審院 裁判所

民事上帶勳有位者喚問取扱方ノ儀ニ付甲號ノ通太政官へ相
伺候處乙號ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事
甲號

民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付伺

民事上帶勳有位者喚問取扱ノ儀ニ付テハ未タ一定ノ法規無
之候然ルニ有位者喚問ノ儀ハ既ニ奏請ヲ經テ喚問取扱來候
先例モ有之帶勳者ニ至テハ未タ先例無之候得共彼此同一ノ
取扱振ニ可相成ハ勿論ノ儀ト存候而シテ右喚問ヲ要候時ハ

本年三月廿一日付伺勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀ニ對シ御
裁令ノ趣モ有之依テ民事ニ於テモ同様帶勳者ハ勳六等有位者
ハ從六位ニ限リ其時々奏問可致儀ト心得可然哉此段相伺候也
乙号
伺之通

○明治十八年司法省丁第五号達

控訴裁判所

輕罪裁判所

本年第二号布告ニ依リ各廳ニ於テ審判シタル輕罪控訴事件
左ノ登記簿式並書例ニ準シ調製シ二ヶ月毎ニ可差出此旨相
達候事

(輕罪控訴登記簿ハ畧之)

(輕罪控訴登記簿書例第一條ヨリ第九條迄略之)

○明治十八年司法省丁第六号達

大審院 裁判所

明治十六年九月當省丁第二十五號達自今廢止候條此旨相達候事

但該達廢止ニ付テハ本年一月當省丁第一號達中但書ハ消滅セシ儀ト心得可シ

○明治十八年司法省丁第七号達

裁判所

本年一月丁第二号達中豫審終結及公判言渡ノ九字ヲ删除シ(裁判確定)ノ四字挿入候條此旨相達候事

○明治十八年司法省丁第八号達

裁判所

自今輕罪ニ係ル控訴事件ニ付テハ明治十四年十二月當省丁第

三十四號達(第五号表式アリ)

ニ據リ既未決事件表ヲ調成差出ス可キ

儀ト心得ヘシ但輕罪裁判所ニ於テ受ケタル控訴事件モ同様ニ該表ヲ調成シ他ノ事件表ト共ニ二ヶ月毎ニ取纏メ差出スヘシ此旨相達候事

治罪法適用問答畢

○附錄

六十 六十 六十 九十 百三 百九 百九 三百 四百 四百 四百 四百
十一 十六 三十一 三十四 四十四 五十四 五十七 五十八 五十九 七十二

丁

九 十二 十三 十一 十二 二十七 五十九 十一 三十七 九十七

正行

(夕)ハ(ア)
(四)ハ(因)
(令)ハ(合)
(被告)ハ(告人)
(遞)ハ(遞)
(寶)ハ(實)
(論)ハ(書)
(依)チ削ル
(所中)ハ(中所)
(ノ)賃達ハ(達賃錢)
至急(候)チ削ル
(付)ハ(對)
(終)ハ(修)

誤

四 六 七 九 百 百 百 二百 三百 四百 四百 四百 四百
十三 十五 二十二 二十四 四十五 四十九 八十七 八十八 八十九 九十八 九十八 九十八

丁

五 九 七 九 七 七 十三 二 九 四 五 十四

行

(事)ハ(察)
(警)ハ(証)
(輕)罪チ脱
シ(ム)チ脱
重大チ脱
(令)ハ(合)
書ニ(依)チ脱
(許)ハ(訴)
欄(ニ)チ脱
(之)有ハ(有之)
(伺)チ削ル
(フ)ハ(ス)
(署)ハ(省)

明治十七年八月十二日 版權免許
同 十八年五月 刻成出版

定價金三圓廿錢

編輯人

大阪府平民
土居徹

同府下西區西長堀北通二丁目
十三番地

出版人

全
鹿田靜七

同府下東區安土町四丁目
三十八番地

出版人

全
岡島眞七

同府下東區本町四丁目
五十九番地

發兌人

岡島支店

同府下東區備後町四丁目
三番地

各 地 賣 捌 書 肆

東京日本橋通二丁目	同 日本橋西河岸町	同 本町二丁目	同 銀座四丁目	尾州名古屋玉屋町三丁目	同 本町二丁目	尾州 稻 登	加州 金澤片町	同 小松京町	越州 福井錦上町	三州 豐橋吳服町	駿州 靜岡江川町	信州 善光寺	江州 大津丸屋町	同 同 榊屋町
稻田佐兵衛	須原鐵二	柳河梅次郎	博聞社	片野東四郎	石野東四郎	市橋平右衛門	益智館	宇都宮源平	溝江八男太	高須廣治	廣瀬市藏	小榊屋喜太郎	澤宗次郎	小川儀平

各 地 賣 捌 書 肆

同 彦根西内大工町	同 八幡新町	勢州 四日市南町	同 同 觀音前	西京東洞院三條上ル	同 河原町通り二條下ル	同 寺町四條上ル	同 三條御幸町	同 寺町通松原下ル	同 佛光寺東洞院	濃州 大垣岐阜町	丹波 福知山	但馬 豐岡雷田町	泉州 堺神明町	同 岸和田北町
田中伍郎	大内弊六	伊藤善太郎	川島九右衛門	村上勘兵衛	大黒屋太郎右衛門	田中治兵衛	大谷仁兵衛	内山龜太郎	東枝吉兵衛	岡安慶助	越山益三	由利安助	鈴木久三郎	本田庄次郎

各 地 賣 捌 書 肆

攝州	茨木	神戶元町五丁目	播州姫路俵町	紀州若山本町二丁目	同 同 小野町	淡路須本	同	備前岡山中ノ町	同 上ノ町	備後尾ノ道士堂町	同 三原	伯州倉吉西町	醫州廣島大手町壹丁目	讚州高松	豫州松山港町四丁目
吉田常三郎	船井政太郎	山野長平	平井文助	野田大二郎	福浦文藏	淡路新聞社	森謹藏	細木半兵衛	三木清三郎	山脇民藏	早速社	岡田爲助	玉井新次郎		

各 地 賣 捌 書 肆

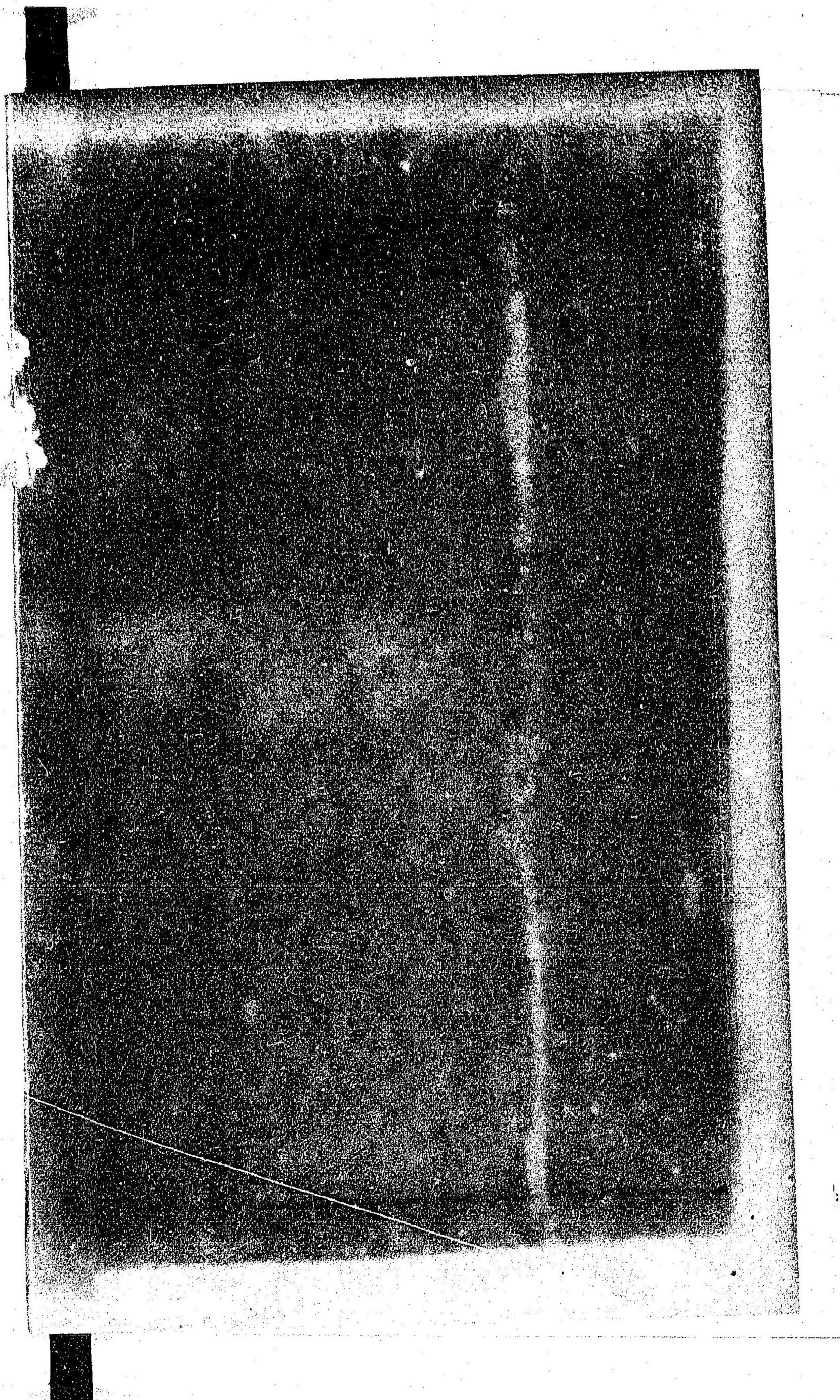
同 港町三丁目	同 同 二丁目	同 同 子驛	防州山口中市町	同 同 大市町	長州萩瓦町	同 同	同 豐浦中濱町	雲州松江本町	銳前福岡	肥前佐賀柳町	肥後熊本	薩州鹿兒島六日町通中町		
土肥與平	向井藏次郎	世良文海堂	門田七郎治	吉岡平衛	宮川臣吉	松原貴平	松原喜兵衛	宮川支店	村谷傳三郎	園山喜三右衛門	山崎登	野口孫三	長崎次郎	吉田幸兵衛

各 地 賣 捌 書 肆

攝州	茨木	吉田	常三郎
神戸元町五丁目	船井	政太郎	
播州姫路俵町	山野	長平	
紀州若山本町二丁目	平井	文助	
同 同 小野町	野田	大二郎	
淡路須木	福浦	文藏	
同	淡路	新聞社	
備前岡山中ノ町	森	禎藏	
同 上ノ町	細	謹舍	
備後尾ノ道土堂町	三木	半兵衛	
同 三原	木村	清三郎	
伯州倉吉西町	山脇	民藏	
醫州廣島大手町壹丁目	早	速社	
讚州高松	岡田	爲助	
豫州松山港町四丁目	玉井	新次郎	

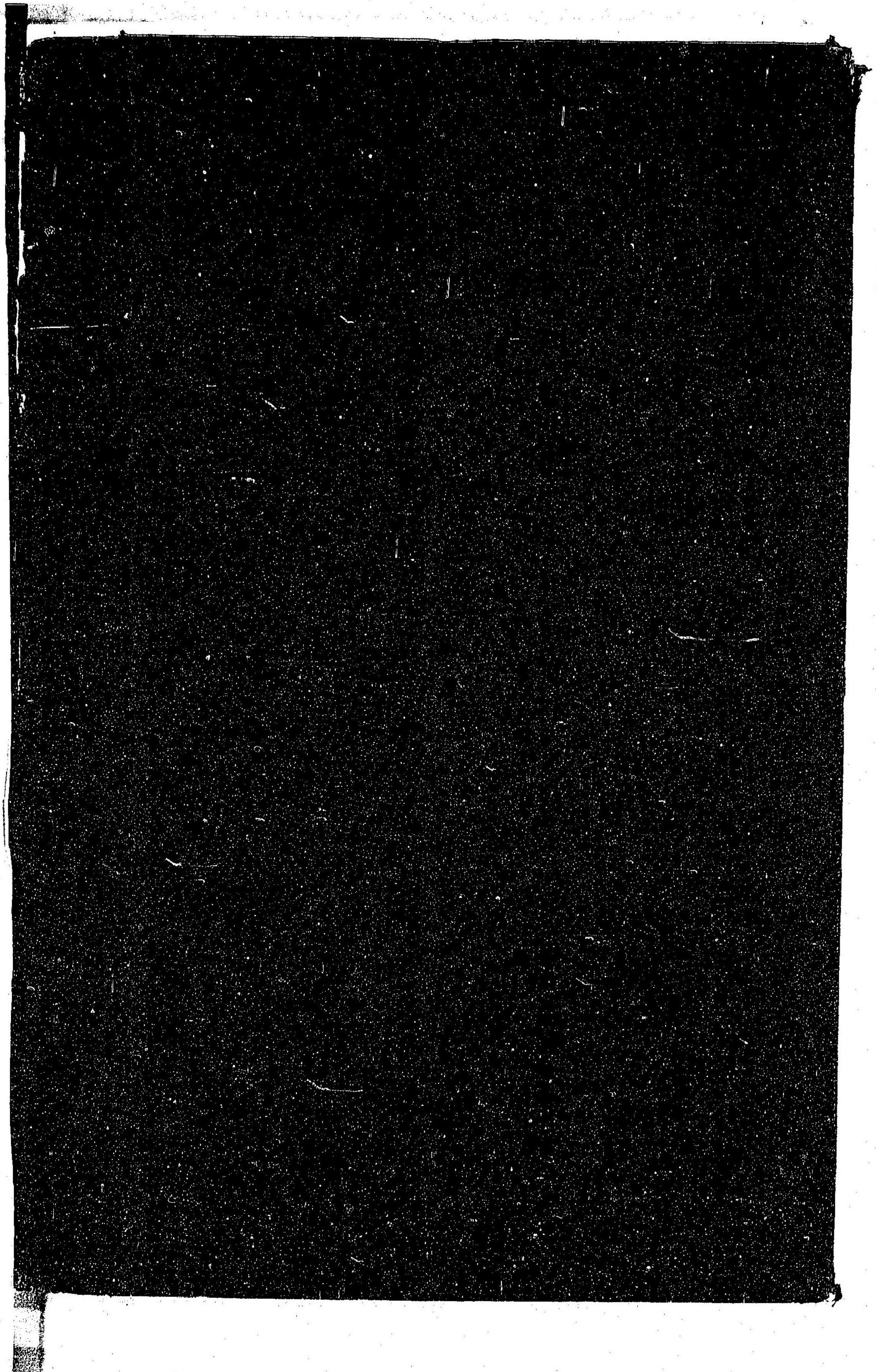
各 地 賣 捌 書 肆

同 港町三丁目	土肥	與平	
同 同 二丁目	向井	藏次郎	
同 同 子驛	世良	文海堂	
同 同 中市町	門田	七郎治	
防州山口中市町	吉岡	平衛	
同 同 大市町	宮川	臣吉	
同 同 大市町	松原	貴平	
長州萩瓦町	松原	喜兵衛	
同 同	宮川	支店	
同 同	村谷	傳三郎	
同 豐浦中濱町	園山	喜三右衛門	
雲州松江本町	山崎	登	
兎前福岡	野口	孫三	
肥前佐賀柳町	長崎	次郎	
肥後熊本	吉田	幸兵衛	
薩州鹿兒島六日町通中町			



36

20



36
20

北京圖書館

二	三			
〇	四	六		
冊	號	架	函	類

圖書目錄

